

あいち農産物生産流通レポート

2022年11月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ カンキツ「夕焼け姫」ブランド化の要件と方策 (農業総合試験場)	1
◎ 地域トピックス	
・ 中山間地域の資源・ジビエの魅力発信！ いなぶジビエグルメ街道 (豊田加茂農林水産事務所)	2
◎ 東日本情報	
・ 加工・業務用野菜の情報交換会セミナーが開催されました (東京事務所)	3
◎ フラワーページ	
・ 東京ビッグサイトでフローラル・イノベーション2022が開催されました (東京事務所)	5
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	7
・ 名古屋・東京市場における青果物の11月の見通し	8
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の11月の見通し(県内市場)	20

※今月「西日本情報」はありません

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課 (052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ (03)-5492-5400

カンキツ「夕焼け姫」ブランド化の要件と方策

農業総合試験場

「夕焼け姫」は当场が開発したカンキツ新品種で、ウンシュウミカンの主力品種「宮川早生」と比較して、果実の形や重さ、皮のむきやすさ、中袋の軟らかさはほぼ同等です。一方、果皮色が鮮やかな赤橙であり、収穫時期がやや早い11月中旬である等の特徴を持つことから、ブランド化が期待されています。



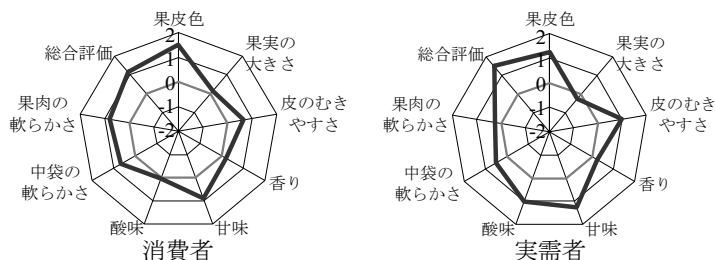
「夕焼け姫」の果実

そこで、試食によるアンケート調査や果実に関する消費者ニーズを主題とする論文等を基に、「夕焼け姫」のブランド化の要件と方策を取りまとめました。

1 「夕焼け姫」のブランド化の要件

果実品質目標である「糖度12度以上、クエン酸1%以下」をほぼ満たした「夕焼け姫」を消費者及び実需者（青果卸売会社）に試食してもらい、その感想を調査しました。評価項目のうち「果皮色」、「皮のむきやすさ」、「甘味」、「総合評価」は、消費者と実需者のいずれも概ね「良い」という結果でした（図1）。果実全般に関する消費者ニーズ（（公財）中央果実協会の2020年度調査）では、「おいしい」、「簡単に食べられる」が上位を占めていることから、「夕焼け姫」の「皮のむきやすさ」と「甘味」の特性は、消費者ニーズに合致していると考えられます。また、アンケート調査での意見・感想からは、「夕焼け姫」の鮮やかな赤橙の「果皮色」は食味の良さをイメージさせることが明らかになりました。

以上より、「夕焼け姫」におけるブランド化の要件は、果実品質目標「糖度12度以上、クエン酸1%以下」、皮のむきやすさ、鮮やかな赤橙の果皮色としました。



(注) 5段階評価 (とても良い=2、良い=1、普通=0、悪い=-1、とても悪い=-2) の平均値

図1 「夕焼け姫」の外観・食味等の評価



図2 オリジナルのシンボルマーク

2 「夕焼け姫」のブランド化の方策

ブランドに対する消費者の態度について、先行研究では、「愛着感を伴わずに認知や憧れで好評価を得てもブランド全体の評価は高まりにくい」、「品種や生産方式への知識が愛着や高級感といった感情的な評価を高める」とされています。これを踏まえ、「夕焼け姫」のブランド化においても、愛着づくりの取組が重要と考えられました。

このため、前述の品質目標を満たす果実の出荷・販売に加えて、「夕焼け姫」への愛着づくり、具体的には、①ブランドストーリー（誕生秘話、高品質栽培の取組紹介等）の浸透、②県が作成したオリジナルのシンボルマーク（図2）の活用機会の増加、③売場での適切な情報発信、④消費者からの情報発信の機会の増加等に取り組むことで、ブランド化を効果的に推進できると考えられます。

中山間地域の資源・ジビエの魅力発信！いなぶジビエグルメ街道

豊田加茂農林水産事務所

豊田市の北部から東部に広がる中山間地域では、その標高差や気候条件などの特徴を活かした農業が行われていますが、イノシシやシカによる農業被害が多く、大きな問題となっています。

こうした問題を解決するために、獣害対策によって捕獲したイノシシやシカを中山間地域の資源としてジビエ料理に活用する取組が推進されています。そのような中で、「いなぶジビエグルメ街道」はジビエ料理の魅力をPRすべく設立されました。今回は、この「いなぶジビエグルメ街道」についてご紹介します。

1 「いなぶジビエグルメ街道」の概要

「いなぶジビエグルメ街道」は2016年度に「食と花の街道」として認定されました。

稲武地区にある「どんぐりの里いなぶ」を中心に、豊田市内にある約20店舗の飲食店等が参加する街道です。参加店舗のうち一部店舗にはジビエの解体処理施設があるため、捕獲したイノシシやシカを店内で処理し、新鮮なジビエ肉を提供することができます。

街道の参加店舗では、定番の猪鍋をはじめ、バーベキューやシカバーガー、ローストしたシカなどさまざまなジビエ料理を提供しており、各店舗で個性あるジビエ料理を楽しむことができます。

また、捕獲されたイノシシやシカはジビエ料理としてお店で提供されるだけでなく、レトルトカレーやジャーキーなどに加工されるなど、さまざまな方法で利活用されています。

店舗によっては、このような加工商品も販売しており、街道全体で余すところなくジビエの魅力を発信しています！



「どんぐりの里いなぶ」ロースト鹿井



ジビエ肉加工商品

2 「いなぶジビエグルメ街道」の取組

「いなぶジビエグルメ街道」では、毎年12月頃からいなぶジビエグルメ街道スタンプラリーを開催しています。対象の店舗を回ってスタンプを集めると抽選で豪華景品が当たる催しで、スタンプラリーを通じて、より多くの人にジビエの魅力を知ってもらうための取組となっています。

今年も例年通り12月頃からスタンプラリーを開催する予定です。さまざまなジビエ料理を楽しむことができますので、お気に入りの一品を見つけに、ぜひスタンプラリーに参加してはいかがでしょうか。

加工・業務用野菜の情報交換会セミナーが開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2022年9月29日（木）に東京ビックサイトにおいて「加工・業務用野菜の情報交換会セミナー」（主催：野菜流通カット協議会）が開催されました。当セミナーで提供された様々な話題の一部を紹介します。

1 主要野菜の用途別需要の動向と特徴（石川県立大学 小林茂典教授）

（1）食の外部化

1990年までは、外食率と食の外部化率（食料支出のうち、外食費と惣菜・調理食品の購入金額の合計が占める割合）の差は大きくありませんでしたが、その後は乖離がみられるようになりました。その乖離は、持ち帰り弁当や惣菜、調理食品の中食にあたります。

新型コロナウイルス感染症が流行した2020年は家庭での食事が増え、外食率、食の外部化率ともに前年の2019年から10ポイント近く下落しましたが、中食の落ち込みはみられませんでした（図1）。



図1 食の外部化の動向

（出典：2022年9月29日開催セミナー配付資料）

（2）加工・業務用需要

長期的に見て食の外部化が進む中、コロナ禍も相まって、中食的な内食、つまり惣菜やカット野菜のほか、冷凍野菜、冷凍調理食品、料理キット等が増加すると同時に、テイクアウトやメニューの冷凍食品化といった外食企業の中食事業化が進みました。

演者の推計によると、主要野菜13品目*における加工・業務用需要は国内消費量の約6割を占め、その割合は増加傾向にあります。とりわけ中食となるカット野菜や冷凍野菜に用いる加工原料需要が高まっています。また、その加工・業務用需要の約3割が輸入によっており、輸入品との結びつきが強いものの、現在、国際情勢やコロナ禍の影響、為替変動といった不安定要素が増大しています。

今後も食の外部化が継続すると推測される中、加工・業務用需要の特徴を踏まえたうえでの国内対応の強化が求められます。加工・業務用需要は安定供給を求めており、国産野菜は「必要なところに、必要な時に、必要な品質・形態で、必要な量を、適切

*：ばれいしょを除く指定野菜13品目（キャベツ、きゅうり、さといも、だいこん、たまねぎ、トマト、なす、にんじん、ねぎ、はくさい、ピーマン、ほうれんそう、レタス）

な価格で」供給する「定時・定量・定質・定価」が必要とされます。そのためには需要情報と生育情報、生育予測といった実需者と産地との情報共有などが重要になります。

2 青果物の最適貯蔵環境へのシフトと冷凍技術について

(株式会社前川製作所 比留間直也課長)

(1) 青果物のコールドチェーン

これまでのコールドチェーンは、経済性の優先により温度は5℃で、湿度管理は行っていませんでしたが、次世代では、経済性と環境面を両立させながら品目別の最適な貯蔵環境へのシフトが求められます。

青果物を品目別に見ると、キャベツやブロッコリーは最適温度が1℃以下、最適湿度は90%以上です。その条件が最適貯蔵条件となる品目が多い一方、タマネギは温度1℃以下で湿度80%以下、トマトやサツマイモは温度10℃以上で湿度90%以上が最適条件となるなど、品目により最適な条件は異なります。

流通の合理化と環境へ配慮した動きとして、ブロッコリーは氷詰めした発泡スチロール容器での流通が主流ですが、容器の廃棄が問題となっており、コンテナ利用やフローレット化の検討が始まっています。

(2) 低温・高湿度の環境づくり

保管庫での貯蔵において、温度が低いほど結露しやすく、0℃ではわずかな水蒸気量の変化で着霜や結露が増加します。加湿するとなおさら着霜や結露が増加し、保管庫内の冷却不良や温度ムラが発生しやすくなるため、温度1℃以下で高湿度環境を作るのは困難です。その中、加湿器を用いず、0℃域の冷風が出せ、冷却コイルへの着霜がなく、温度と湿度の変動を抑えるノンデフロスト運転ができる理想的な冷却システムを開発しました。これにより、これまで5℃の普通冷蔵では2週間目にカビの発生と変色が進んだイチゴが2週間目でも外観上の傷みや変色は極少になり、2.5℃の貯蔵で黄化や傷みがみられたキャベツ、レタスが、0.5℃の貯蔵で品質劣化が極少となるなど、貯蔵能力が飛躍的に高まりました。



キャベツ 2か月
2.5℃：黄化 0℃：保管開始と同等



レタス 4週間
2.5℃：傷みが進行 0℃：傷みは極少

写真 キャベツとレタスの貯蔵試験の結果 (2020年7月～9月)

(出典：2022年9月29日開催セミナー配付資料)

以上のように、今後も手堅い加工・業務用需要が続くと予想される中、国内産地で対応するには、実需者と産地とで情報共有しながら「定時・定量・定質・定価」を満たすことが重要です。一方、冷蔵技術の発達により長期貯蔵が一般的になると、これまでの需給バランスが変化することが考えられ、産地のあり方が問われるようになるかもしれません。

東京ビッグサイトでフローラル・イノベーション 2022 が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2022年10月26日(水)～10月28日(金)に「フローラル・イノベーション 2022」(主催:一般社団法人日本能率協会、共催:一般社団法人日本フローラルマーケティング協会)が東京ビッグサイトで開催され、花きの展示及び講演会が行われましたので、概要を紹介します。

1 展示の内容

(1) フLOWER需給マッチング協議会

当協議会は、生産・流通・加工・小売関係者が協力し、国産花き生産振興を目的に需給に合った商品開発等を行う団体です。

取組事例として、短茎など実需者の使用実態に合わせた切り花規格を「スマートフラワー(SF)規格」とし、用途に合わせた規格での流通を提案しています。SF規格とすることで生産-流通-加工時の調製作業のコスト削減を図ります。事例として愛知県産スプレマムが紹介されていました。また、日本の20～40代の住環境では、自宅用として切花を飾るスペースを考慮すると30～40cmが合うという調査結果から、住宅事情に合わせたブーケとしてジャパンライフスタイルブーケ(Jブーケ)商品を提案していました。



SF 規格展示の様子



Jブーケ展示の様子

(2) インパック株式会社

インパックは花き資材や加工機械類の製造・販売を行っている企業です。フィルムのスリーブ(花を入れる袋)に紙を組み合わせた資材を紹介していました。日本ではフィルムが主流ですが、海外では紙のスリーブも増えています。脱プラスチックの流れに対応する商品として、この紙スリーブを販売していました。紙を組み合わせることで資材コストは上がりますが、フィルム単体より見た目の印象が向上するため、このスリーブを用いた花束にすることで売価を上げることが期待できます。将来的には、フィルム自体をバイオマス、生分解性に変えていき、石油製品の削減を目指しています。



ペーパースリーブ展示の様子

2 講演会の内容

「サステナブルな花生産とは？」

～花き生産現場の課題と問題解決、花き業界のSDGs、世界の花き産業の動向～
 コメンテーター : 有限会社青木園芸 青木代表取締役

有限会社エフ・エフ・ヒライデ 平出代表取締役

MPS ジャパン株式会社 彦田 氏

コーディネーター：法政大学 小川 名誉教授

下記の議題について、コメンテーターから取組事例が紹介されました。

(1) 花き生産現場の課題と問題解決

ア 病虫害防除と農薬使用について

花きに残留農薬基準はないが、環境負荷（生産者の健康被害、近隣へのドリフト、河川への流出、病虫害の抵抗性発現など）を考慮する必要があります。スマート農業実証事業での取組事例として、農薬の AI 自動散布を実施しています。病虫害の発生源を AI 判定し、発生源のみを自動散布します。これにより、労働時間削減、作業者の安全性向上、薬量削減などが期待できます。

イ 肥料の使用と土作りについて

肥料の過剰使用による環境負荷、肥料価格の高騰、世界情勢による輸入の不安定が問題となっています。取組事例として、施設園芸では残存窒素量をゼロに近づけるように施肥量をコントロールしています。

ウ エネルギーの効率的利用について

石油等の供給不安定と価格高騰、CO₂ 排出が問題となっています。紹介された取組では、予冷施設へ太陽光発電を利用していますが、導入コストが高いことがネックになっています。将来的にはエネルギーの地産地消も必要と考えていますが、同様にコスト高が課題となっています。

エ 雇用及び生産・販売方策について

農業従事者の高齢化、農地集約、大規模化が課題となっています。紹介された取組では、組織として継続させるために、見える化を実施しています。具体的には、情報の見える化として、電子日報、TODO リスト、ハウス別の収穫量と作業時間実績等をデータ化しており、60 歳以上の被雇用者も iPad で取り組んでいます。外部への見える化として、Instagram 等の SNS で情報発信に取り組んでいます。評価の見える化として、自己・上司評価を実施しており、ポイントとして 5 段階評価では平均好きの日本人は 3 を付ける傾向があるため 4 段階評価としています。

(2) 世界の花き産業の動向について

持続可能な花き貿易を推進する組織である FSI2025 (Floriculture Sustainability Initiative) が行う FSI は、公正な花き生産の証しとなる国際的な認証です。農業生産管理、人権保護・社会的責任、環境負荷低減の各項目について要求水準を満たす必要があります。オランダにある世界最大の花市場では、2021 年取扱高の 65%が FSI の要求を満たしています。

花き産業の地位向上を目標にオランダ花市場と生産協会等が共同で設立した MPS (Millieu Programma Sierteelt. 花き生産の環境プログラム) は、日本で 2007 年に導入されました。生産だけでなく市場・流通も対象としており、生産者向け認証として環境認証 MPS-ABC 環境認証があります。環境負荷要因を農薬、肥料、エネルギー、水・廃棄物に分けて審査し、環境負荷低減への取組を国際的に認証しており、ABC でランク付けすることで消費者が確認できる仕組みとなっています。

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下
 わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：ぎんなん）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2021年実績	88	87 (99%)	790	788	愛知 (99%) 岐阜 (1%)
2022年見通し	70	—	790	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知からはほぼ全量を入荷する。本県の主要2品種である「久寿」、「藤九郎」について、入荷量は久寿が昨年並、藤九郎は前年を下回る見込み。また、本年は生育が順調だが、粒数が多く小玉傾向。量販向けの大玉が少ないため、入荷量は減る見込み。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年並の見込み。</p>			<p>ぎんなんは愛知の特産品で全国一の産地でもある。産地の作付面積は微減傾向にあり、生産者は高齢化しているが、消費者からは大玉が好まれるため、枝打ちなど大玉の生産に重点を置いた栽培管理をお願いしたい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：カリフラワー）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2021年実績	4,000	284 (7%)	241	216	茨城 (18%) 熊本 (17%) 長野 (16%)
2022年見通し	3,900	—	245	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>9月の長雨と台風の影響により入荷量が少ない状態が続き、不足感のある販売が続いている。 愛知産は11月からの本格出荷を見込むが生産者数の減少に伴い出荷量も減少する。地域により豪雨や台風による被害があり今後の入荷量の大きな増加は期待できず、一時的な減少が懸念される。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並となる見込み。</p>			<p>顧客から安定供給が求められているが、課題となっている。 品目特性上、事前情報の提供が難しいことは理解しているが、精度の高い情報をこまめに発信してもらいたい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の11月の見通し

名古屋中央卸売市場

10月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
野菜計	2017年	34,397	236	237	232	北海道	32%	
	2018年	34,369	214	235	211	愛知	16%	
	2019年	34,918	210	201	219	茨城	16%	
	2020年	36,163	190	200	196	長野	10%	
	2021年	37,970	200	202	199	青森	3%	
	5ヵ年平均	35,564	210	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	2022年見通し	35,200	197	—	—			
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、愛知、茨城を中心に入荷する。前年は平年に比べ安値の品目が多かったが、本年は平年並の価格を見込む。葉菜類は概ね生育順調。果菜類は産地の切り替わる品目が多いが、生育は概ね順調。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並の見込み。</p>						
<p>数量</p> <p>単価 円/Kg</p>								
だいこん	2017年	2,024	118	103	126	137	千葉	43%
	2018年	2,273	68	84	64	61	愛知	41%
	2019年	2,025	101	107	109	96	青森	8%
	2020年	1,945	71	91	71	58	神奈川	2%
	2021年	2,124	61	73	59	55	静岡	2%
	5ヵ年平均	2,078	83	91	84	81	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2022年見通し	2,000	100	105	100	95		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、愛知を中心に入荷する。千葉は生育順調、愛知も生育は順調だが作付面積が減少している。昨年は出荷調整を行うほどであったが、今年の販売環境は悪くない予想。入荷量は前年よりやや下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>						
<p>数量</p> <p>単価 円/Kg</p>								
にんじん	2017年	2,080	139	147	143	135	北海道	59%
	2018年	1,515	174	235	160	121	愛知	17%
	2019年	2,157	107	102	121	102	岐阜	15%
	2020年	2,190	128	145	136	115	青森	5%
	2021年	2,544	104	118	120	94	千葉	3%
	5ヵ年平均	2,097	127	146	133	111	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2022年見通し	1,800	180	200	180	160		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に、愛知、岐阜から入荷する。北海道は7～8月の天候不順のため、例年より早めの切り上がりの見込み。岐阜その他の産地は、植え付け時期の天候不順のため、上旬の数量は減少する見込み。入荷量は前年を大幅に下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>						
<p>数量</p> <p>単価 円/Kg</p>								

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

10月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2017年	1 2 2, 7 0 7	2 6 9	264	265	279	茨城 23%
	2018年	1 2 6, 8 8 9	2 2 4	248	215	207	千葉 19%
	2019年	1 2 4, 4 0 4	2 3 9	236	245	238	北海道 16%
	2020年	1 2 3, 8 2 8	2 0 9	225	213	188	群馬 4%
	2021年	1 2 3, 0 7 4	2 1 5	224	212	209	愛知 4%
	5カ年平均	1 2 4, 1 8 0	2 3 1	—	—	—	
	2022年見通し	1 2 3, 0 0 0	2 2 0	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>台風被害により一部では定植遅れがあるものの総じてみれば影響は少ない。10月下旬の冷え込みで順調な生育が緩慢になるも入荷は順調に続く見込み。なお、果菜類は加温控えによる出回り減が懸念される。</p> <p>入荷量は前年並となり、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>						
だいこん	2017年	1 1, 4 9 7	1 0 5	89	105	123	千葉 63%
	2018年	1 2, 8 7 3	5 9	74	53	49	神奈川 19%
	2019年	1 0, 8 8 6	9 7	100	99	91	茨城 7%
	2020年	1 1, 7 8 8	5 9	79	54	44	青森 7%
	2021年	1 1, 6 0 7	5 5	67	53	44	群馬 1%
	5カ年平均	1 1, 7 3 0	7 4	81	72	69	
	2022年見通し	1 1, 5 0 0	6 0	75	60	45	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>千葉、神奈川からの入荷が中心となる。各産地とも生育はおおむね順調。主力の千葉は中旬から量を増やす。これまで北日本主体で量が少なく高値基調も、潤沢な入荷が続く相場は下がっていくか。</p> <p>入荷量は前年並となり、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>						
にんじん	2017年	7, 1 6 5	1 3 7	130	146	134	千葉 48%
	2018年	7, 1 8 2	1 1 7	220	185	131	北海道 32%
	2019年	7, 4 0 7	1 1 8	101	117	137	青森 9%
	2020年	7, 4 4 9	1 3 6	138	143	127	埼玉 6%
	2021年	7, 9 3 4	1 0 3	67	107	94	茨城 2%
	5カ年平均	7, 4 2 7	1 2 2	130	139	124	
	2022年見通し	7, 7 0 0	1 4 5	160	150	125	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>千葉、北海道からの入荷が中心となる。千葉は大雨のため一部がまき直しも生育はおおむね順調で、下旬に向けて量を増やしていく。北海道は上旬に切り上がるため端境が生じるか。</p> <p>入荷量は前年をわずかに下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

10月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2017年	3,906	105	82	108	128	茨城 49%
	2018年	4,255	64	83	62	48	長野 33%
	2019年	4,289	78	72	84	79	愛知 16%
	2020年	4,680	46	48	48	41	岐阜 1%
	2021年	4,864	54	55	56	50	三重 1%
	5ヵ年平均	4,399	68	66	71	67	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	4,500	60	65	60	55	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	茨城、長野を中心に入荷する。茨城、愛知は順調な入荷、九州産地は雨・台風の影響もあり上旬の入荷がかなり少ない見込み。量販店、漬物ともに昨年に比べ荷動きは良好。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。						
キヤベツ	2017年	3,711	111	102	111	120	愛知 44%
	2018年	3,707	88	116	75	77	茨城 32%
	2019年	3,418	80	77	89	78	長野 8%
	2020年	4,044	66	76	69	57	北海道 6%
	2021年	4,278	72	89	72	61	秋田 2%
	5ヵ年平均	3,832	83	92	82	77	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	3,900	70	70	70	70	
べ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知、茨城を中心に入荷する。愛知、茨城は順調な生育で、安定な入荷を見込む。九州が台風等の影響で少ない見込みだが、影響はあまりない。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。						
ほうれんそう	2017年	162	969	1,086	955	892	岐阜 38%
	2018年	380	424	533	357	397	愛知 32%
	2019年	269	685	747	772	580	茨城 16%
	2020年	386	443	591	488	323	静岡 6%
	2021年	365	487	586	462	425	長野 3%
	5ヵ年平均	312	545	649	543	465	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	350	480	600	500	400	
そ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	岐阜を中心に、愛知、茨城などから入荷する。岐阜の高冷地ものは終盤となり、愛知の露地ものが徐々に揃ってくる見込み。関東も潤沢な入荷が見込まれる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並となる見込み。						

東京都中央卸売市場

10月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうろく	2017年	15,800	81	60	78	104	茨城 80%
	2018年	15,001	51	72	43	36	長野 14%
	2019年	15,639	67	62	68	71	群馬 5%
	2020年	15,413	34	40	33	29	
	2021年	15,781	42	50	43	34	
	5ヵ年平均 2022年見通し	15,527 15,500	55 50	57 60	53 45	55 45	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に長野などからの入荷となる。茨城は定期的な降雨により生育順調。中旬には量がまとまりピークに入る。終盤の長野の量がまとまるのは上旬まで。総じて入荷は潤沢となる見込み。 入荷量は前年並となり、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
		<p>数量 (t) と単価 (円/kg) の推移。数量は12月～10月にかけて増加傾向にあり、11月は減少。単価は12月～10月にかけて増加傾向にあり、11月は減少。</p>					
キヤベツ	2017年	14,193	105	96	101	119	千葉 41%
	2018年	15,335	84	103	73	75	愛知 21%
	2019年	15,307	79	73	89	77	茨城 21%
	2020年	15,067	62	70	62	52	神奈川 6%
	2021年	15,458	68	80	67	56	群馬 4%
	5ヵ年平均 2022年見通し	15,072 15,000	79 70	84 80	78 65	75 65	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、愛知、茨城からの入荷が中心となる。低温に加え、千葉は少雨、茨城は降雨のため生育は遅れ気味。愛知は一部に台風による定植遅れがあるほか、干ばつによる生育遅れもある。各地遅れるも量は十分。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>					
		<p>数量 (t) と単価 (円/kg) の推移。数量は12月～10月にかけて増加傾向にあり、11月は減少。単価は12月～10月にかけて増加傾向にあり、11月は減少。</p>					
ほうろ	2017年	798	927	920	891	976	群馬 45%
	2018年	1,846	363	434	301	357	茨城 25%
	2019年	1,072	723	773	776	640	栃木 10%
	2020年	1,699	411	499	465	299	埼玉 6%
	2021年	1,826	391	469	350	366	千葉 5%
	5ヵ年平均 2022年見通し	1,448 1,750	497 450	562 560	487 420	456 370	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、茨城など関東産地からの入荷がほとんどとなる。各産地ともおおむね順調な生育。群馬では害虫多発が心配されたが、入荷量への影響はない。中旬に各産地が出揃い相場下落するか。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
		<p>数量 (t) と単価 (円/kg) の推移。数量は12月～10月にかけて増加傾向にあり、11月は減少。単価は12月～10月にかけて増加傾向にあり、11月は減少。</p>					

名古屋市中央卸売市場

10月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2017年	1,194	426	433	401	457	長野 28%
	2018年	1,144	379	424	360	351	北海道 27%
	2019年	1,170	388	386	377	403	富山 11%
	2020年	1,078	368	408	372	322	秋田 4%
	2021年	1,329	310	316	303	311	岩手 4%
	5ヵ年平均	1,183	373	391	361	368	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,200	360	340	360	380	
ねぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野、北海道を中心に各産地から入荷する。北海道は天候の影響から、昨年より微減の見込み。長野、富山は順調な入荷を見込む。愛知は一本ねぎが終了し、越津ねぎ中心の入荷となる。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>						
し	2017年	1,279	439	434	366	535	茨城 47%
	2018年	1,813	161	191	148	141	兵庫 32%
	2019年	1,626	267	275	276	250	愛知 10%
	2020年	2,022	129	134	149	110	静岡 3%
	2021年	2,177	142	170	133	129	長野 2%
	5ヵ年平均	1,783	208	225	199	203	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,900	160	170	160	150	
し	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>茨城、兵庫を中心に入荷する。兵庫、熊本は生育順調で、中旬以降に増加する見込み。玉流れはし中心の見込み。気温低下により消費は大きくない。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>						
き	2017年	797	494	618	396	491	愛知 35%
	2018年	1,111	324	356	299	321	群馬 22%
	2019年	1,114	362	475	348	296	宮崎 15%
	2020年	1,281	306	371	309	249	高知 10%
	2021年	1,190	294	320	274	289	長野 6%
	5ヵ年平均	1,099	346	409	321	316	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,120	315	350	300	280	
き	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>愛知、群馬、宮崎などから入荷する。冬春産地の生育はおおむね順調で、平年並の入荷を見込む。</p> <p>入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

10月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2017年	5, 6 6 9	4 0 7	387	384	452	秋田 17%
	2018年	5, 6 8 0	3 5 3	400	326	332	青森 13%
	2019年	5, 6 0 8	3 7 1	360	357	394	茨城 12%
	2020年	5, 5 5 4	3 3 9	364	353	298	栃木 9%
	2021年	5, 7 6 2	2 6 5	270	263	262	千葉 8%
	5ヵ年平均 2022年見通し	5, 6 5 5 5, 6 0 0	3 4 7 3 6 0	356 350	336 350	347 380	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>秋田、青森など北日本産地及び茨城など関東産地からの入荷が中心となる。終盤の北日本産地に代わり量を増やす関東産地は生育順調。一部産地の細物傾向は改善。2L比率が高く入荷は潤沢な見込み。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
し	2017年	5, 1 1 7	4 5 4	412	401	570	茨城 71%
	2018年	7, 5 0 5	1 4 4	184	137	114	静岡 9%
	2019年	7, 0 7 5	2 5 3	255	262	242	兵庫 6%
	2020年	7, 1 1 9	1 2 0	128	137	97	栃木 4%
	2021年	7, 0 1 3	1 3 9	160	130	127	香川 3%
	5ヵ年平均 2022年見通し	6, 7 6 6 6, 7 0 0	2 0 8 1 5 0	217 160	202 150	209 140	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に静岡、兵庫などからの入荷となる。生育順調でピークに入っている茨城は、順調な出方も量が多いのは上旬か。兵庫などは台風のため定植遅れがあり、低温もあって生育遅延気味。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
きゅう	2017年	4, 5 0 7	4 7 6	546	394	491	埼玉 25%
	2018年	4, 8 7 0	3 3 2	350	313	331	宮崎 23%
	2019年	4, 8 8 4	3 8 8	456	386	330	群馬 22%
	2020年	5, 0 7 6	3 1 6	367	319	265	千葉 8%
	2021年	5, 1 9 1	2 9 7	314	282	295	高知 6%
	5ヵ年平均 2022年見通し	4, 9 0 6 4, 9 0 0	3 5 9 3 6 0	403 420	337 340	339 320	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>埼玉、宮崎、群馬などからの入荷となる。関東産地は曇雨天と低温による弱めの草勢からの回復を見込むも、気温が低い時期で大きな増量はない。宮崎は台風による定植遅れがあるも入荷への影響は少ない。 入荷量は前年をやや下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

10月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2017年	363	507	513	513	501	熊本 53%
	2018年	474	404	427	387	397	愛知 39%
	2019年	460	425	387	450	442	高知 4%
	2020年	492	416	421	430	398	山梨 2%
	2021年	444	382	361	397	393	徳島 1%
	5ヵ年平均	447	423	417	434	424	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	440	400	380	420	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知、高知などから入荷する。熊本、愛知は生育順調で安定した入荷を見込む。肥料等の生産経費の値上がりにより、各市場での価格対応の有無による入荷量の差は、例年以上に広がる見通し。 入荷量は前年並、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
ト マ ト	2017年	1,014	417	418	400	439	熊本 26%
	2018年	931	449	564	432	357	岐阜 26%
	2019年	769	486	429	537	487	愛知 25%
	2020年	1,002	395	547	421	289	三重 18%
	2021年	843	463	515	429	461	大分 2%
	5ヵ年平均	912	439	493	439	393	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	900	450	500	450	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、岐阜、愛知などから入荷する。夏秋産地が終了し、冬春作へ切り替わる。冬春産地の生育は良好で、中旬以降に増加見込み。小玉中心の入荷となる見通し。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	2017年	360	779	832	714	791	熊本 52%
	2018年	436	801	968	879	632	愛知 36%
	2019年	348	842	830	850	847	茨城 4%
	2020年	446	714	949	789	521	宮崎 3%
	2021年	486	711	683	749	696	北海道 2%
	5ヵ年平均	415	764	843	793	677	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	450	700	800	700	600	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知を中心に入荷する。夏秋、抑制産地が終了となり、冬春作へ完全に切り替わる。着果数も確保され、潤沢な入荷で下旬に向けて価格は低下する見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並の見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

10月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2017年	1, 906	580	605	579	553	高知 60%
	2018年	2, 566	393	399	367	416	福岡 13%
	2019年	2, 316	467	454	495	455	熊本 9%
	2020年	2, 469	414	412	419	410	栃木 6%
	2021年	2, 493	403	402	392	418	群馬 5%
	5ヵ年平均	2, 350	444	447	443	445	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	2, 400	410	420	400	410	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知を中心に福岡、熊本などから入荷する。関東産地から高知など西南暖地に切り替わる。高知はおおむね順調な生育。福岡は台風による定植遅れで生育は例年より遅れ気味か。入荷に不足はない見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並となる見込み。</p>					
ト マ ト	2017年	5, 235	437	405	425	491	熊本 23%
	2018年	5, 024	465	544	463	397	千葉 18%
	2019年	4, 115	538	474	583	555	愛知 15%
	2020年	4, 995	462	608	498	344	栃木 11%
	2021年	4, 478	512	314	476	555	茨城 9%
	5ヵ年平均	4, 769	480	472	485	463	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	4, 800	490	580	470	420	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、千葉、愛知からの入荷が中心となる。主力の熊本は、前年のような病害発生がなく生育はおおむね順調。千葉は着果不良が見られるほか上段収穫で量を減らすか。愛知は生育順調も小玉傾向。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	2017年	1, 730	725	769	660	747	熊本 25%
	2018年	1, 803	761	924	813	590	愛知 20%
	2019年	1, 769	794	788	788	805	千葉 18%
	2020年	1, 874	704	900	785	513	静岡 7%
	2021年	1, 874	658	612	686	671	宮崎 6%
	5ヵ年平均	1, 810	727	798	747	663	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1, 850	740	900	720	600	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知などからの入荷が中心となる。主力の熊本をはじめ、各産地とも生育に大きな問題はない。一部産地では高温による着果不良や曇雨天による草勢低下がみられる。総じて入荷は潤沢な見込み。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

10月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2017年	381	602	691	615	510	鹿児島 39%
	2018年	628	415	556	411	330	茨城 26%
	2019年	509	366	383	392	393	宮崎 21%
	2020年	478	430	522	437	361	高知 11%
	2021年	447	344	378	365	335	北海道 2%
	5ヵ年平均	489	424	500	435	386	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	420	400	450	400	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>鹿児島、茨城、宮崎を中心に入荷する。各産地、台風の影響で例年より入荷が遅れる見込み。上旬は、冬春作の切り替わりから単価高となる見通し。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>							
白菜	2017年	2,446	106	99	109	108	北海道 97%
	2018年	2,396	119	117	120	118	長崎 3%
	2019年	2,783	83	82	84	83	
	2020年	2,327	137	134	141	137	
	2021年	2,037	203	195	199	213	
	5ヵ年平均	2,398	126	119	128	129	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	2,300	120	115	120	125	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道からほぼ全量を入荷する。北海道は蔵入れが終了し、計画出荷主体の販売となる。L主体の玉流れを見込む。長崎は生育順調で、11月末から入荷の見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>							
たまねぎ	2017年	7,322	74	75	81	73	北海道 98%
	2018年	6,064	95	96	99	93	中国 1%
	2019年	6,272	74	78	75	72	
	2020年	6,225	71	72	72	71	
	2021年	6,800	143	124	141	168	
	5ヵ年平均	6,537	92	90	95	92	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	6,500	90	90	90	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道からほぼ全量を入荷する。北海道は貯蔵物の出荷となり、安定した入荷を見込む。蔵入り次第、計画出荷に切り替わる。L大中心の入荷で、下旬から中生品種へ切り替わる見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

10月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2017年	1, 592	616	661	637	559	茨城 51%
	2018年	2, 001	421	519	396	345	宮崎 26%
	2019年	2, 048	413	411	419	411	高知 12%
	2020年	1, 876	428	494	436	362	鹿児島 8%
	2021年	2, 041	356	372	370	327	岩手 2%
	5ヵ年平均	1, 912	439	483	443	394	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1, 900	420	450	410	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に宮崎、高知などからの入荷となる。茨城は高温による生育不良から回復し、順調な生育。宮崎は台風の影響で定植遅れがあるものの生育順調で量を増やしていく。入荷に不足はない見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ばれいしょ	2017年	7, 453	103	100	102	108	北海道 99%
	2018年	6, 209	121	119	124	121	長崎 1%
	2019年	7, 536	89	91	88	88	
	2020年	6, 812	137	137	138	138	
	2021年	5, 951	195	183	196	205	
	5ヵ年平均	6, 792	126	123	127	129	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	6, 400	100	100	100	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。前年は夏期の高温と干ばつによる不作で数量少なく高値となった。今年は地域により大雨の影響があるものの数量は十分でLサイズ中心の入荷が続く見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	2017年	11, 577	82	79	82	85	北海道 92%
	2018年	9, 818	107	104	108	111	中国 7%
	2019年	9, 216	79	80	79	80	
	2020年	9, 122	75	75	74	75	
	2021年	8, 152	169	155	172	180	
	5ヵ年平均	9, 577	100	96	101	104	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	9, 600	95	95	95	95	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。前年は夏期の高温と干ばつによる不作で数量少なく高値となった。今年は数量十分で肥大も問題なく、L大中心に順調な入荷となる見込み。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

9月20日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2017年	10,235	307	285	319	330	静岡 15%
	2018年	10,475	299	311	304	296	フィリピン 12%
	2019年	9,651	320	311	333	330	岐阜 11%
	2020年	9,898	324	329	328	327	和歌山 9%
	2021年	10,046	359	363	362	362	長野 9%
	5ヵ年平均	10,061	322	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	10,000	320	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>みかん、りんご、かきなどが主な品目となる。りんごは、各産地大玉傾向で、入荷量は平年並の見込み。いちごは、上旬は入荷量が少なく、中旬以降に増加する見込み。</p> <p>果実全体の入荷量は前年並、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						
み	2017年	3,829	271	224	187	148	静岡 36%
	2018年	4,263	229	258	239	206	熊本 18%
	2019年	3,846	244	240	263	242	和歌山 16%
	2020年	4,263	259	276	268	244	愛知 13%
	2021年	4,186	263	270	274	251	三重 8%
	5ヵ年平均	4,077	253	254	247	219	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	4,000	260	270	260	250	
かん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>静岡、熊本、和歌山などから入荷する。静岡、愛知は表年傾向であり、数量増の見込み。西の産地は不作、東の産地は豊作の傾向。西南団地については、早生が前年比80%の予想。</p> <p>入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。</p>						
か	2017年	2,285	269	732	569	981	岐阜 70%
	2018年	2,032	265	630	607	787	和歌山 16%
	2019年	1,752	282	600	429	706	三重 6%
	2020年	1,501	336	487	385	627	愛知 5%
	2021年	1,586	354	546	514	520	福島 2%
	5ヵ年平均	1,831	296	612	511	747	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,660	330	300	340	340	
き	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>岐阜を中心に和歌山、三重などから入荷する。岐阜の富有は、平年より大玉傾向のため、増量の見込み。和歌山、三重、愛知は、中旬頃に目途の予定。</p> <p>入荷量は前年をやや上回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>						

注：前年の4～6月、本年の4～7月は入荷なしにつき単価を0円/kgで表記

東京都中央卸売市場

10月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2017年	46,108	316	292	315	340	愛媛 20%
	2018年	42,493	329	322	323	341	長崎 11%
	2019年	43,802	333	318	335	341	熊本 9%
	2020年	43,562	347	345	338	358	和歌山 9%
	2021年	42,005	380	381	371	389	青森 9%
	5カ年平均	43,594	340	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2022年見通し	42,000	380	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 前年数量 本年数量 前年単価 本年単価			
	みかん、りんご、かきなどが入荷する。りんごは生育良好で大玉傾向であり、少なかった前年から入荷量は増える見込み。いちごは九州地域での台風や生育期の高温の影響もあり、全体で入荷は遅れる見込み。入荷量、価格ともに前年並となる見込み。						
みかん	2017年	21,584	270	245	275	281	愛媛 35%
	2018年	21,334	273	286	275	262	長崎 22%
	2019年	20,820	264	249	273	263	熊本 16%
	2020年	21,623	285	293	289	276	和歌山 13%
	2021年	21,985	285	289	287	276	佐賀 7%
	5カ年平均	21,469	276	273	280	272	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2022年見通し	20,500	288	295	285	280		
みかん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 前年数量 本年数量 前年単価 本年単価			
	愛媛、長崎、熊本を中心に入荷する。各産地生育順調で、10月末から極早生みかんから早生みかんに切り替わる。早生、中生は前年より入荷量が少ないことが予想され単価は堅調となる見込み。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並となる見込み。						
かき	2017年	7,452	243	237	249	246	奈良 21%
	2018年	6,063	248	248	240	260	和歌山 16%
	2019年	6,967	266	258	270	273	新潟 12%
	2020年	6,503	324	322	328	322	岐阜 11%
	2021年	5,848	351	350	353	352	福岡 11%
	5カ年平均	6,567	284	280	286	288	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2022年見通し	6,800	268	260	270	275		
かき	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 前年数量 本年数量 前年単価 本年単価			
	富有が福岡等から、平核無が和歌山等から入荷する。上旬は平核無中心でその後は富有中心となる。福岡の富有は台風の影響で下位等級が増える見込み。富有、次郎ともに前年より入荷量は多くなる見込み。入荷量は前年を大幅に上回り、価格は大幅に下回る見込み。						

切花・鉢花の11月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 10月31日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2017年	1,713	50	
		2018年	1,508	40	
		2019年	1,600	45	
		2020年	1,191	52	
		2021年	1,441	54	
	5カ年平均	1,491	48		
	2022年見通し	1,400	54		
概要	愛知、三重、沖縄から入荷する。上旬は夏秋系と秋系の品種が重なり、入荷は多めに推移しそう。中旬以降は数量も落ち着き、入荷量も安定してくる見込み。				
小 ぎ	実績	2017年	732	39	
		2018年	739	29	
		2019年	750	30	
		2020年	764	28	
		2021年	737	33	
	5カ年平均	744	32		
	2022年見通し	730	35		
概要	愛知、沖縄から入荷する。上旬は入荷量、色バランスなど不安定になりそうだが、中旬からは安定していく見込み。一般需要の動きで相場は変動しそう。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	2017年	1,021	46	
		2018年	1,204	38	
		2019年	1,100	38	
		2020年	1,147	31	
		2021年	1,041	41	
	5カ年平均	1,103	39		
	2022年見通し	1,000	42		
概要	長野、愛知、輸入で構成。例年通り長野産は徐々に終盤を迎える。暖地の愛知産はまだ短い物が多く、60-70等級の長めの物は輸入対応となるが、為替の影響もあり、苦慮される。				
か す み	実績	2017年	133	125	
		2018年	102	120	
		2019年	110	115	
		2020年	139	87	
		2021年	155	92	
	5カ年平均	128	106		
	2022年見通し	150	95		
概要	和歌山、高知、熊本から入荷する。高冷地産の入荷は上旬にほぼ終了となる。西南暖地は台風被害もなく、中旬にはまとまった入荷となる見込み。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2017年	273	192	
		2018年	268	178	
		2019年	270	175	
		2020年	244	179	
		2021年	221	203	
	5カ年平均		255	185	
	2022年見通し		220	200	
概要	<p>オリエンタルは高知、宮崎、新潟、埼玉、愛知などから入荷。前半はやや少ないが中旬以降は昨年並の入荷となりそう。鉄砲、LAは高知、埼玉中心に昨年並の入荷が見込まれる。</p>				
洋らん	実績	2017年	463	82	
		2018年	503	69	
		2019年	500	70	
		2020年	350	97	
		2021年	322	119	
	5カ年平均		428	84	
	2022年見通し		330	120	
概要	<p>国内産に加え、輸入品が入荷する。デンファレは相場次第だがアンナ中心に増加する。オンシジウムは4Lが減少し、3L、2Lが増加し、ジンプジウムはニュージーランド産が終了し、国内産が少しづつ入荷してくる。デンファレ、カトレアは横ばいで推移。</p>				
ばら	実績	2017年	780	92	
		2018年	772	76	
		2019年	800	80	
		2020年	701	78	
		2021年	677	95	
	5カ年平均		746	84	
	2022年見通し		650	95	
概要	<p>愛知、岐阜、三重中心に入荷。品質も向上してきている。入荷は国内は前年並みだが、輸入は例年よりも3割ほど減少する見込み。</p>				
枝も	実績	2017年	1,542	52	
		2018年	1,396	54	
		2019年	1,450	50	
		2020年	1,259	57	
		2021年	1,432	62	
	5カ年平均		1,416	55	
	2022年見通し		1,400	60	
概要	<p>静岡、長野、岐阜を中心に入荷。ヒムロ、孔雀などは例年通り引き合い強い。前半ユーカリはやや多い入荷となるが、中旬以降は減少する。柳類は例年通りの入荷で実物(バラ等)は終了近い。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ドラセナ	実績	2017年	10,437	826	
		2018年	12,114	753	
		2019年	11,747	665	
		2020年	16,748	941	
		2021年	14,522	1,130	
	5ヵ年平均		13,114	880	
	2022年見通し		14,000	1,143	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。原木類の高騰、輸入減少に伴い、大鉢・中鉢が減少する、品目によってはかなり減少する。5号未満の小鉢は昨年並の予想。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（50.5%）、2位沖縄（14.2%）、3位鹿児島（11.6%）であった。</p>				
シヤコバサ	実績	2017年	34,066	428	
		2018年	41,212	415	
		2019年	29,339	520	
		2020年	32,266	539	
		2021年	24,868	583	
	5ヵ年平均		32,350	487	
	2022年見通し		24,000	583	
概要	<p>入荷量は前年をやや下回るか。6号は相対率が上がる為、かなり品薄となる見込み。7号以上も作付け減少に伴い減少する。5号以下特に4号は品薄になる見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（74.0%）、2位埼玉（23.9%）、3位栃木（1.6%）であった。</p>				
シクラメン	実績	2017年	847,072	271	
		2018年	750,854	289	
		2019年	659,736	279	
		2020年	791,136	302	
		2021年	794,945	309	
	5ヵ年平均		768,749	290	
	2022年見通し		790,000	310	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。ガーデンシクラメンは前年より入荷量やや減が予想され、4号、5号は作付け減が要因か。また注文価格も資材高騰で値上がりが見込まれる。これからの天候による仕上がり次第では、価格安定で推移する見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（32.8%）、2位長野（16.7%）、3位群馬（10.0%）であった。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
シンビジュウム	実績	2017年	43,650	2,399	
		2018年	44,723	1,898	
		2019年	34,010	2,045	
		2020年	40,986	2,268	
		2021年	50,173	1,814	
	5カ年平均		42,708	2,075	
	2022年見通し		50,000	1,920	
概要	<p>入荷量は前年並の見込み。前年は全体に半月ほど開花が前進し入荷増となり単価が落ち込んだ。生産量の減少は毎年続き止まらない状況にある。また、チェーンストアの投入は例年通り11月中旬頃頃からスタートし、下旬から商戦に入る。咲きすぎには注意して出荷をお願いしたい。</p> <p>前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(62.7%)、2位高知(10.5%)、3位三重(7.2%)であった。</p>				
カラコエ	実績	2017年	33,287	161	
		2018年	27,516	186	
		2019年	20,547	208	
		2020年	19,132	265	
		2021年	21,561	250	
	5カ年平均		24,409	207	
	2022年見通し		21,500	250	
概要	<p>8月・9月の暑さがこの時期の出荷品に影響しロスが多いため、入荷量は減少の見込み。</p> <p>サイズは4～6号が中心となる。価格面では、4号八重品種は安定、一重品種はシクラメンやポインセチアの動向に左右される。埼玉県が主となる5号・6号は、生産減に伴い注文・相対率が上がる為価格は安定か。</p> <p>前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(49.9%)、2位岐阜(44.3%)、3位愛知(2.2%)であった。</p>				
パンジー	実績	2017年	915,671	50	
		2018年	911,667	50	
		2019年	745,065	54	
		2020年	900,558	54	
		2021年	972,835	59	
	5カ年平均		889,159	53	
	2022年見通し		960,000	55	
概要	<p>入荷量は前年より増加か。暑さの傷み対策から生産を遅らせた分、10月後半から11月中旬にかけて出荷集中のあと、中盤以降は開花待ちなどで、引き合いに対して不足する可能性もあり。</p> <p>前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(35.1%)、2位奈良(16.7%)、3位三重(13.0%)であった。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.593
2022年11月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434